



イメージキャラクター
みどりちゃん

「冬の五郎兵衛村」

表紙の写真は第15回「美しく豊かな農村づくり写真コンクール」でNICE NOSON賞を受賞した秋田県横手市の「かまくら」を写した作品です。「かまくら」とは、約450年の歴史を持つ、水神様をまつる横手の小正月行事です。かまくらの中にまつられた水神様にお神酒・お餅などをお供えし、門松やしめ縄を燃やすことで家内安全、商売繁盛、五穀豊穰などを祈願する行事でしたが、観光化が進み、現在のような形になりました。

かまくらの中に灯された明かりのように今年1年が皆様にとって明るく、幸多き年でありますようにお祈り申し上げます。

撮影者／高橋 真一 様

あきたの うらやましい かちと

VOL.

518

2022.1.17

謹賀新年

TOPIC 1

新年挨拶

TOPIC 2

農業農村整備の集い

目次

CONTENTS

新年挨拶

- ・ 本会会長【高貝久遠】 2
- ・ 秋田県知事【佐竹敬久】 3
- ・ 全国土地改良事業団体連合会会長【二階俊博】 4
- ・ 全国水土里ネット会長会議顧問、参議院議員【進藤金日子】 5
- ・ 全国水土里ネット会長会議顧問、
農林水産大臣政務官、参議院議員【宮崎雅夫】 6
- 農業農村整備の集い 7
- 東北・北海道土地改良事業団体連合会連絡協議会が要請活動 7

令和4年度農業農村整備事業関係予算 8

- 第5回インフラメンテナンス大賞 10
- 湯沢雄勝土地改良区が農林水産大臣賞を受賞
- 「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2021審査結果について 10
- 秋田の原風景を守り継ぐフォーラム2021in横手 11
- 連合会日誌 11
- 謹賀新年（新年挨拶） 12
- 第64回通常総会開催予定 12
- 編集後記 12

新年のごあいさつ



秋田県土地改良事業団体連合会
(水土里ネット秋田)

会長 高貝 久遠

明けましておめでとうございます。

皆様には、御家族おそろいで、輝かしい新春をお迎えになったことと、心からお慶び申し上げます。

また、平素より農業農村整備事業の推進に多大なる御尽力をいただきとともに、本会の運営に特段の御高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は大きな自然災害もなく、水稻の作柄も3年連続で「やや良」となりましたが、新型コロナウイルス禍の影響を受けて業務用米の需要が落ち込んだことから米余りに拍車が掛かり、2021年産米のJA概算金は大幅に下落し、出来秋を迎えた生産現場

に大きな衝撃が走りました。

近年、農業を取り巻く情勢は、生産現場における労働力不足、大規模自然災害の頻発化、農産物のグローバル化、新型コロナウイルス感染症の拡大など大きく変化してきており、本県の農業・農村が持続的に発展していくためには、情勢の変化に適確に対応できる「強い農業・農村」を実現することが重要であります。

このため、引き続き「あきた型ほ場整備」を計画的に推進し、米依存から脱却した複合型農業経営に向けた生産基盤の整備を加速するとともに、高収益作物の導入・定着を図るための水田の畑地化・汎用化や、人口減少下でも生産力の維持・拡大が期待できるスマート農業に対応した基盤整備を推進する必要があります。

また、農業・農村における国土強靱化として、これまでの調査等を踏まえ、ため池などの農業水利施設の防災・減災工事を計画的に進めるとともに、ICTを活用した遠方操作システムの設置等、維持管理の省力化と監視体制の強化を図ることも必要であります。

こうした事業実施に必要な国の農業農村整備関係予算ですが、令和4年度当初予算案は、4,468億円で閣議決定していただき、令和3年度補正予算と合わせると6,300億円となり、本年度と同様、各地域の要望に十分応える予算額を確保できる見込みです。これも水土里ネットが組織を挙げて取り組んだ成果であり、今後とも安定した予算確保に向けて皆様の御理解と御協力をお願い申し上げます。

水土里ネット秋田は、農業農村整備事業のエキスパートとして農業政策推進の一翼を担い、本県の農業・農村の持続的発展を実現するために、役職員一丸となって業務に邁進してまいりますので、皆様には、なお一層の御支援、御愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとって、希望に満ち、幸多き一年となりますように心から御祈念申し上げ、新年の挨拶といたします。

年頭のごあいさつ



秋田県知事
佐竹 敬久

明けましておめでとうございます。

水土里ネット秋田の会員の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症の世界的規模での流行が続く中、国内にも感染拡大の波が押し寄せました。幸い、ワクチン接種の拡大等により感染の抑え込みが進み、秋以降は日常の生活風景が戻りつつありますが、県内でも多くの業種で影響を受けていることから、県内経済の下支えと活性化を図るための取組を進めているところであります。

一方、県政の喫緊の課題である人口減少問題については、人口流出や出生数の減少傾向は続いているものの、これまでの取組の成果などもあり、直近の県内人口の社会減少数が2年続けて3千人を割り込むなど、人口減少の抑制に向けた兆しも見え始めております。

農業分野においては、全国のトップブランドを目指した水稻新品種「サキホコレ」が昨年11月にプレデビューを果たし、県内外での人気を集めるなど、本年の本格デビューに向け大きな弾みがついたところであります。

これまで県では、「ふるさと秋田農林水産ビジョン」に基づく施策・事業に取り組み、「米依存からの脱却」と「農業産出額の増大」を目標に掲げ、園芸メガ団地の整備等により、複合型生産構造への転換を強力に推進してまいりました。その結果、エダマメやネギ、しいたけ等の園芸品目の生産が拡大し、昨年は農業産出額の増加率が全国トップとなるなど、本県農業の構造改革が大きく前進したところであります。

こうした成果は、生産者を始めとする関係者の努力の賜であります。ほ場整備と農地中間管理事業による農地集積、園芸メガ団地整備等を三位一体で行う「あきた型ほ場整備」が大きな役割を果たしていると認識しております。4月からスタートする「新ふるさと秋田農林水産ビジョン」においても、これまで進めてきた複合化の取組を一層強化するとともに、先端技術を駆使したスマート農業の加速化に必要なほ場整備を着実に推進してまいります。

また、近年の頻発化・激甚化する豪雨、地震等の自然災害に適切に対応し、農村地域の安全・安心な暮らしを実現するため、農業水利施設の長寿命化対策や、防災重点農業用ため池の豪雨・耐震化対策を集中的かつ計画的に推進し、防災・減災や県土の強靱化に努めてまいります。

さらに、中山間地域ならではの農業ビジネスの振興や半農半Xなど新たな兼業スタイルの普及により、関係人口や定住人口の拡大を図り、多様な人材が活躍し、活力ある農山漁村の実現を目指してまいります。

今後とも、本県農業の成長産業化に向け、私自身が先頭に立ち、農業農村整備事業を力強く推進してまいりますので、水土里ネット秋田の会員の皆様におかれましても、より一層のご支援・ご尽力をお願いいたします。

結びに、新型コロナウイルス感染症が一日も早く収束し、世界に平安が訪れることを願いますとともに、新しい年が皆様にとって希望に満ちた飛躍の年となりますようご祈念申し上げ、年頭のごあいさつといたします。

新年にあたって



全国土地改良事業団体連合会

会長 二階 俊博

令和4年の年頭に当たり、土地改良に携わる全国の皆様に、謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

新型コロナウイルスの感染が世界各国で拡大する中で、新しい年を迎えることとなりました。我が国では、ワクチン接種が進み感染者数は減少しているものの、世界的には変異株の感染が拡大し予断を許さない状況が続いております。

皆様には、感染防止のためにできることを今一度ご確認いただき、コロナ禍を共に乗り越えて頂きたいと願っております。

さて、昨年3月に新たな土地改良長期計画が策定され、3つの政策課題に取り組むこととされました。生産基盤の強化による農業の成長産業化、多様な人が住み続けられる農村の振興、農業・農村の強靱化といった政策課題に対して具体の施策が定められ、中でもスマート農業実装の加速化、ため池の防災対策の集中的かつ計画的な推進、流域治水の推進は、今後の農業農村整備を進める上で大事な要素となってくるものです。

令和4年度予算につきましては、これらの政策課題の解決に向け、農業農村整備の着実な推進を求める全国の皆様からの熱意ある要請活動により、政府予算案において、4,468億円を確保することができました。この結果、令和3年度の補正予算を含めると6,300億円となります。

皆さまの活動に深く敬意を表しますと共に、心から御礼を申し上げます。

一方、第5次男女共同参画基本計画に続き土地改良長期計画においても土地改良区等の女性理事登用が成果目標とされたところであり、我々、土地改良団体においても将来の組織体制強化のためにも、女性参画を進めていかなければなりません。

私たち土地改良に携わる者としましては、政府の動きと軌を一にして、これまで培ってきた技術と蓄積された経験を活用し、「闘う土地改良」を活動の基本におき農業農村の振興に積極的に貢献していくことが重要であると考えております。また、農業農村の維持、発展に大きく貢献していることについて広く国民の皆様にアピールし、共感を得ていく努力も必要であります。皆様と一体となって取り組み、所期の成果が得られますよう引き続き奮闘して参りたいと思います。

また、土地改良の代表として進藤金日子参議院議員と宮崎雅夫参議院議員が元気に全国を飛び回り、まさに「車の両輪」となって活躍されています。本年は進藤さんの2回目の闘いとなりますが、今後は、進藤さん、宮崎さんの活動と連携して、更に一層「闘う土地改良」の浸透が図られるよう念じております。

最後になりますが、輝かしい年の初めに当たり、本年も皆様各々の地域において更に農業農村が活力を得て、一層発展しますようご期待申し上げますとともに、新型コロナウイルスの不安が払拭され、本年が全国の皆様にとってよき年であり、日々健やかに過ごされますようご祈念申し上げまして、私の新年のご挨拶といたします。

新年のご挨拶



全国水土里ネット会長会議顧問
参議院議員

進藤 金日子

新年、明けましておめでとうございます。旧年中は、秋田県の皆様には大変お世話になり感謝申し上げます。本年も何卒宜しくお願い致します。

私も皆様にご支援をいただき国政に送り出さずしていただきながら、早5年半が過ぎました。土地改良予算の動向を報告し、私なりの政治スタイルを再確認しながら次のステップを展望してみたいと思います。

昨年末には、令和3年度補正予算が臨時国会において可決、成立しました。土地改良予算は、総額1,832億円（TPP等対策：774億円、米対策：46億円、国土強靱化5か年加速化対策：1,012億円）です。令和4年度当初予算政府原案での土地改良予算は4,468億円（令和4年度からデジタル庁計上となる政府情報システム予算を含む。）であり、令和4年度の予算額は補正と当初を合わせて6,300億円となり、本年度と同水準の予算が確保できる見通しとなりました。

主な事業制度の新規・拡充事項としては、①農家負担がゼロの「農地中間管理機構関連農地整備事業」の工種に農業水利施設や農道、暗渠排水等を追加（現在は区画整理と農地造成のみ）、②「農地耕作条件改善事業」の助成対象に田んぼダム導入に係る調整活動や畦畔補強等とともに除草機器を追加、③省エネ化・再エネ利用に取り組む「かんがい排水事業」の事業費要件や末端要件を緩和、④「土地改良施設維持管理適正化事業」に「防災減災機能等強化対策」（防災・減災機能の強化、施設管理の省エネ・再エネ利用や省力化を図るための施設整備）を新設（国費率を従来の30%から50%に嵩上げ）、⑤「土地改良区体制強化事業」の助成対象に小規模土地改良区の業務再編を追加することなどが挙げられます。

私は、これまで全国津々浦々を訪問し、現場の実情を視て、現場の声を聴いて、それらを国政の場に届け、課題解決の実現に努めて参りました。私自身、現場目線、国民目線での政治こそが、いま強く求められていると痛感しています。こうした活動が事業制度の新規・拡充要求に繋がっているものと確信しています。秋田県内にも度々訪問し、色々のご指摘や多くの要請をいただきました。こうした現場の声を真摯にお聴きし、改善できるものはすぐに改善し、事業制度の新規・拡充に繋げる必要があるものは次年度の予算要求に反映できるように更に努力して参ります。

全国各地の農業・農村は多様であり、それ故に各種要請の内容も多様です。引き続き同志の宮崎雅夫議員と力を合わせ、必要な予算の確保とともに、現場の課題解決に直結する制度構築等に全力で取り組んで参ります。今後とも、これまでの政治スタイルとスタンスを変えることなく、泥臭く鈍重でも、急峻な斜面を一步一步踏み締めて前進する牛のように精進し、現場が抱えている課題を一つでも多く解決できるように結果を出して参る所存です。

皆様からお預かりした参議院議員の任期も残すところ7か月余りとなりましたが、まずは貴重な任期を一日たりとも無駄にすることなく政治活動に全力投球して参ります。そして、次のステップに進むためには改選という高く厚い壁を超えなければなりません。私自身、この壁の突破に専心努力して参る覚悟ですので、皆様のご指導とご支援を心からお願い申し上げます。皆様の益々のご健勝とご活躍を心からお祈りいたしております。

新年ご挨拶



農林水産大臣政務官
参議院議員

宮崎 雅夫

秋田県土地改良事業団体連合会会員各位ならびに関係の皆様
に謹んで新年のお慶びを申し上げます。旧年中は多大なるご支
援とご指導を賜り衷心より感謝申し上げます。

昨年10月に発足した岸田内閣ならびに11月発足の第二次岸田内
閣において、農林水産大臣政務官を拝命いたしました。これも
偏に秋田県の皆様ならびに、進藤金日子参議院議員はじめ先輩
国会議員のご指導とご支援によるものであり、本年も新たな気
持ちで現場主義に徹しつつ皆様のご意見をお伺いしながら一層
努力して参る所存ですので、引き続きご指導くださいますよう
お願いいたします。

さて、ここ2年に亘って農林水産業はじめ各方面に影響を及ぼ
してきた新型コロナウイルス感染症は、国民の皆様のご協力に
より、昨秋以降の新規感染者数は低位に推移していますが、新たな変異株による感染拡大も懸念される
昨今の状況からは決して油断することはできません。

経済安全保障の重要性が叫ばれる中、食料の多くを輸入に頼る我が国にとって食料安全保障の確立は
重要であり、そのためには我が国の農林水産業の持続的発展が不可欠です。

こうした中、昨年末には、令和4年度当初予算案が閣議決定されるとともに、臨時国会において令和3
年度第1次補正予算が成立し、農業農村整備事業関連予算として合計6,300億円を確保することができま
した。

このうち、令和4年度当初予算においては、前年度の当初予算を上回る4,468億円を確保し、農地の大
区画等の推進、水利施設・ため池等の老朽化対策や流域治水などの防災・減災、国土強靱化対策等を推
進することとしています。また、令和3年度補正予算では、TPP対策や防災・減災、国土強靱化対策の加
速化に必要な1,832億円が計上されており、全国の皆様のご要望にしっかりとお応えできる規模となっ
ています。

また、これから国会で議論される令和4年度当初予算に関連して、土地改良法の改正を検討することと
しており、主な事項としては、ため池等の急施の防災事業に豪雨対策を追加すること、農地中間管理機
構関連農地整備事業の対象工種に農業用水路等を追加すること、市町村や土地改良区による防災対策事
業の機動的実施ため、土地改良事業団体連合会による技術的支援等を可能とすること、また、組織の維
持が困難となった小規模土地改良区について、法人格を維持しながら認可地縁団体等に移行できる手続
きを既定するなどが予定されています。予算と制度が車の両輪となって土地改良の効果が確実に発現で
きるよう、引き続き進藤金日子議員とともに頑張る所存です。

これからも皆様とともに土地改良を推進するため、もう一つの大切な車の両輪である秋田県出身の進
藤金日子議員と一緒に国政で取り組んで行けるよう、秋田県の皆様に格段のご支援をお願い申し上げま
す。

結びに、本年が皆様お一人おひとりご家族にとって素晴らしい一年となりますよう祈念申し上げま
して、新年の挨拶とさせていただきます。

本年もよろしくお願いいたします。

農業農村整備の集い

～農を守り、地方を創る予算の確保に向けて～



会場の様子

11月16日(火) 砂防会館別館「シェーンパッハ・サボー」で、令和4年度当初予算の確保に向けた「農業農村整備の集い」が開催され、全国から土地改良関係者が約600名参加した。

始めに二階俊博全土連会長が「農家の方々が期待を持って働けるような環境をつくるため、我々は一致団結して闘っていかなければならない。来年度の土地改良予算を地元の要望に応える規模で確保できるよう、しっかりと活動を展開していくことが重要である。『闘う土地改良』は今後も限りなく続く。皆さんの更なるご尽力をお願いしたい」と挨拶を述べた。

ご臨席の金子原二郎農林水産大臣、自民党の森山裕TPP・日EU・日米TAG等経済協定対策本部長、公明党の石井啓一幹事長、進藤金日子全国水土里ネット会長会議顧問からの力強いご祝辞をいただくとともに、多くの国会議員の皆様へ駆け付けていただいた。

また、土地改良における男女共同参画を先駆的に実践した、故藤井チエ子(山口県土連理事、やまぐち水土里ネット女性の会会長)、奥村千扶子(大島堰土地改良区理事長)の両氏に、二階会長から感謝状が授与された。

その後、要請案文の朗読と採択が行われ、最後の「ガンパロウ三唱」では、男女共同参画の趣旨を踏まえ、加藤理恵(あいち水土里ネット女性の会会長)、斎藤富子(やまぐち水土里ネット女性の会会長)、松野弘宗(水土里ネット北海道・全土連出向中)の男女3氏による力強い“ガンパロウ”の発声と盛大な拍手をもって閉会し、各都道府県、ブロック別に関係省庁への要請活動が行われた。



二階全土連会長



進藤参議院議員

農業農村整備関係予算の確保、東日本大震災からの再生・復興について

東北・北海道土地改良事業団体連合会連絡協議会が要請活動

東北・北海道土地改良事業団体連合会連絡協議会(会長：高貝久遠秋田県土連会長)は、11月26日(金)に金子原二郎農林水産大臣、藤原崇財務大臣政務官、富樫博之復興副大臣へ、土地改良事業の令和4年度当初予算及び令和3年度補正予算、復旧・復興事業予算の要請活動を行った。



金子農林水産大臣への要請活動



藤原財務大臣政務官への要請活動



富樫復興副大臣への要請活動

令和4年度農業農村整備事業関係予算

概算決定の概要

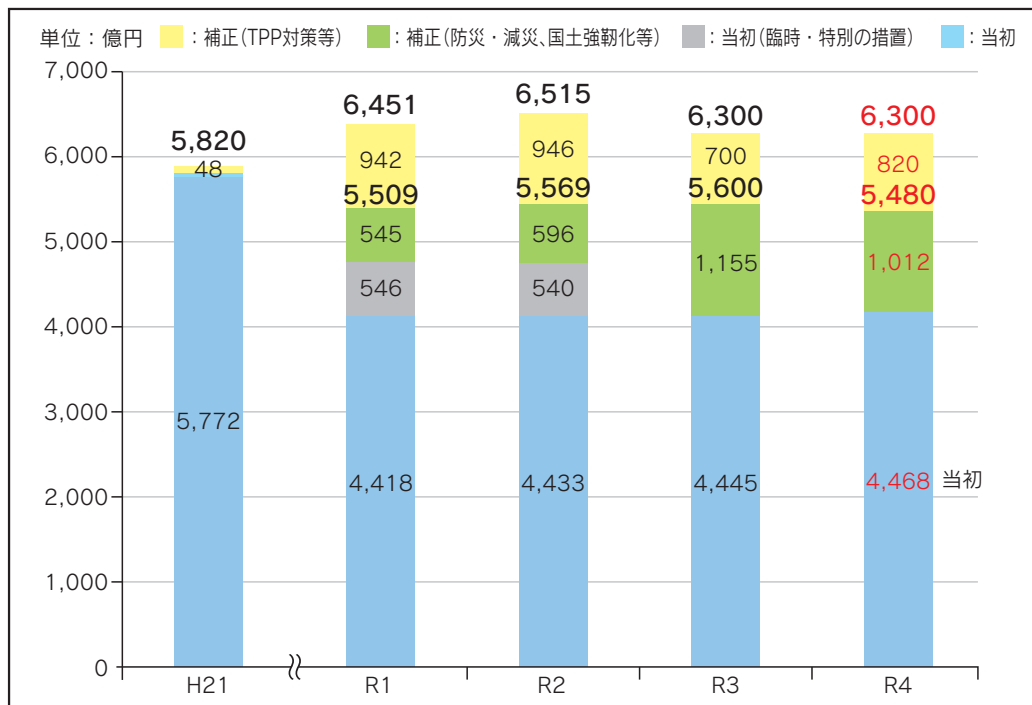
令和4年度農林水産予算について、12月24日に下記の内容が閣議決定された。

(単位：億円)

区 分	4年度 概算決定額 A	3年度 補正額 B	合 計 A + B	【参考】		
				3年度 予算額 A'	2年度 補正額 B'	合 計 A'+B'
農業農村整備事業(公共)	3,322 (100.1%)	-	3,322	3,317	-	3,317
農地耕作条件改善事業	248 (100.0%)	-	248	248	-	248
農業水路等長寿命化・防災減災事業	254 (98.4%)	-	254	258	-	258
農山漁村振興交付金	38	-	38	12	-	12
農山漁村地域整備交付金(公共)(農業農村整備分)	591 (99.3%)	-	591	595	-	595
政府情報システム予算	15	-	15	15	-	15
T P P等関連農業農村整備対策	-	774	774	-	700	700
米の臨時特別対策	-	46	46	-	0	0
防災・減災、国土強靱化のための5カ年加速化対策	-	1,012	1,012	-	1,155	1,155
計	4,468	1,832	6,300	4,445	1,854	6,300

(注) 1. 計数は四捨五入のため、端数において合計とは一致しないものがある。
2. 下段()書きは、令和3年度予算額との比率である。

農業農村整備事業関係予算(当初及び補正)の推移



<注目事項>

- 農業農村整備予算は4,468億円を計上。令和3年度補正予算と合わせて6,300億円となる。
- 平成22年度大幅削減となった農業農村整備予算が削減前の平成21年度当初予算を大幅に超える額となった。

1. 令和4年度当初予算(案)

<p>①農業農村整備事業<公共></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業の競争力強化や農村地域の国土強靱化を図るため、農地の大区画化・汎用化、農業水利施設の適切な更新・長寿命化、省エネ化・再エネ利用、防災重点農業用ため池の防災・減災対策、農業用ダムの洪水調節機能強化や田んぼダムの取組拡大、農道、集落排水施設の整備等を推進 	<p>3,322億円 (3,317億円)</p>
<p>②農業農村整備関連事業<非公共></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の多様なニーズに応じたきめ細やかな耕作条件の改善、農業水利施設のきめ細やかな長寿命化対策や機動的な防災減災対策、情報通信環境の整備、農地の粗放的利用、加工・販売・交流施設等の整備を支援 	<p>540億円 (518億円)</p>
<p>③農山漁村地域整備交付金<公共></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地方の裁量によって実施する農林水産業の基盤整備や農山漁村の防災・減災対策に必要な交付金を交付 	<p>農業農村整備分 591億円 (595億円)</p>
<p>※デジタル庁計上の政府情報システム予算</p>	<p>15億円 (15億円)</p>

2. 令和3年度補正予算

<p>①T P P等関連農業農村整備対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農地の更なる大区画化・汎用化、水田の畑地化、畑地・樹園地の高機能化、畜産クラスターを後押しする草地整備等を推進 	<p>774億円</p>
<p>②米の臨時特別対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主食用米から麦・大豆、野菜等への転換を促進するため、排水改良等による水田の汎用化を推進 	<p>46億円</p>
<p>③防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 激甚化・頻発化する豪雨災害を踏まえた「流域治水」の取組、基幹的な農業水利施設の老朽化対策や豪雨・地震対策、ため池の防災・減災対策等を推進 	<p>1,012億円</p>

湯沢雄勝土地改良区が農林水産大臣賞を受賞 —相互扶助の再生で保全管理技術を伝承—

12月3日、第5回「インフラメンテナンス大賞」の授賞者が発表され、湯沢雄勝土地改良区が「メンテナンスを支える活動部門」において農林水産大臣賞を受賞しました。

インフラメンテナンス大賞とは ▶

日本国内における社会資本（インフラ）のメンテナンスに係る優れた取組や技術開発を表彰し、優良事例として広く紹介する表彰制度です。対象となるインフラは、道路・鉄道等の産業基盤等多岐にわたり、農山漁村を形成する農業用施設も含まれています。

このため、これらの施設を所管する農林水産省を含む7省が、共通の3部門（メンテナンス実施現場における工夫部門、メンテナンスを支える活動部門、技術開発部門）において優れた取り組みに対し、大臣賞・特別賞・優秀賞を決定するものです。

第5回となる今年度は、全省で247件の応募があり、そのうち11件が各大臣賞を受賞しました。

湯沢雄勝土地改良区の取り組み ▶

湯沢雄勝土地改良区管内の山田五ヶ村堰は、農業用水のみならず消雪、防火・生活用水など、様々な用途で活用されており、これまで「集落の財産」として共同利用や保全管理が行われてきましたが、近年農家が減少していく中、「集落の財産」という意識が薄れてきていました。このため、土地改良区が地域住民主体の維持管理を進めていくための「地域のコーディネーター」としての役割を担い、集落の相互扶助の再生による保全管理技術の伝承に取り組んでいます。

取り組みの普及・レベル向上のための維持管理コンテスト及び研修会の開催や、住民直営工事の実施によるコスト削減など、地域住民が主体となって地域の歴史・文化、農村景観、農業用施設等の「集落の財産」を維持、継承していくための様々な取り組みが高く評価され、農林水産大臣省受賞の運びとなりました。



地域住民による維持管理活動



話し合いにより集落の思いを一つに



各組織の代表が活動成果をプレゼン・審査

「ふるさとの田んぼと水」 子ども絵画展 2021

審査結果について



平成12年度から開始した「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展（全国水土里ネット主催）は、今年で22回目を迎え、子どもの絵画を通じ、一般国民に対する水土里ネットの啓発普及を効果的に展開するため、毎年開催している。今年度の入賞作品は、12月4日（土）～ 12月11日（土）の間「東京美術館」で展示を行った。

秋田県からは95作品の応募があり、今年度はその中から1作品が入選した。

水土里ネット秋田会長賞

「かまくらと横手城」 横手市立横手北小学校 岡本まあやさん

秋田の原風景を守り継ぐフォーラム2021 in 横手

— 守ろう貴重な資源を、繋げよう次世代へ —



秋田県と秋田県多面的機能支援協議会は、令和3年11月22日(月)、横手市のふるさと村にて「秋田の原風景を守り継ぐフォーラム」を開催しました。本フォーラムは多面的機能支払交付金及び中山間地域等直接支払交付金を実施している活動組織・協定が一堂に会し、情報交換することで、地域を見直し、新たな活動や今後の活動継続に役立てることを目的としており、本年度で3回目の開催となります。県内各地から、農用地・水路・農道等の保全活動や農村環境保全活動に取り組んでいる活動組織・協定の方々を中心に約

460名の参加があり、併せて「秋田の原風景を守り継ぐ優良表彰」が行われ、県内4活動組織、3集落協定に対して、それぞれ知事賞、協議会長賞の表彰状授与がありました。

特別講演では、全国水土里ネット会長会議顧問 参議院議員 進藤金日子氏から「中山間地域の振興について」と題し、日本の農山村のおかれている現状、中山間地域農業の課題と打開に向けて、そして農村地域における地域運営組織の展開について講演をいただきました。

基調講演では、秋田県生活環境部自然保護課ツキノワグマ被害対策支援センター近藤麻実氏から「環境整備でケモノに負けない集落づくり」と題し、集落・農地の維持のための鳥獣対策として、クマ、ニホンジカ、イノシシなどのケモノから農地を守る方法について講演を行っていただいたほか、表彰された活動組織から、模範となる取組事例を発表していただきました。

今後、参加された皆様が本フォーラムの講演等を参考として、貴重な地域資源を守り、次世代へ繋げていくための模範となる活動を展開していただけることを期待します。(秋田県多面的機能支援協議会事務局)



連 合 会 日 誌

12月27日	令和3年度第2回秋田市農業大賞実行委員会総会	秋田市
1月13日	都道府県土地改良事業団体連合会等事務責任者会議	オンライン会議
1月14日	都道府県土地改良事業団体連合会ブロック代表事務責任者会議	オンライン会議
..... 今後の行事予定		
1月25日	令和3年度土地改良区体制強化事業統合整備推進研修会	長野県
1月28日	あきた水土里ネット女性の会 令和3年度女性セミナー	秋田市
2月1日	NN予算に関する説明会(キャラバン)・意見交換会	秋田市
2月3日	令和3年度秋田県農林水産フォーラム	秋田市
2月10日	全国水土里ネット女性の会総会・研修会	東京都
2月10日	第4回正副会長会議	本会役員室
2月18日	第6回監事会	本会第2会議室
2月18日	第4回理事会・第3回役員会	本会第1会議室

今年もよろしくお願ひいたします。

令和4年



※秋田市総社神社の特大絵馬

会 長	高 貝 久 遠	秋田県田沢疏水土地改良区理事長	理 事	菅 原 広 二	男鹿市長
副 会 長	藤 井 弘 道	秋田県南旭川水系土地改良区理事長	〃	三 浦 昭 夫	由利本荘市土地改良区理事長
〃	成 田 光 弘	北秋田市土地改良区理事長	〃	福 原 淳 嗣	大館市長
専務理事	佐 藤 暢 芳	員外 (学識経験者)	〃	松 田 知 己	美郷町長
常務理事	金 森 正 広	員外 (学識経験者)	総括監事	高 田 清 茂	山城水系土地改良区理事長
理 事	南 都 武 男	昭和土地改良区理事長	監 事	伊 藤 盛 雄	にかほ市土地改良区理事長
〃	石 山 金 由	二ツ井町土地改良区理事長	〃	安 達 英 樹	大館市二井田真中土地改良区理事長
〃	田 口 信 一	かづの土地改良区理事長		外職員一同	

開催予定

本会第64回通常総会

日時 令和4年3月18日(金) 午後1時

会場 秋田市文化会館 5階大会議室

編 集
後 記

明けましておめでとうございます。皆様にとって2021年はどのような1年でしたか。私個人としては春から水土里ネット秋田の一員となり、新たな学びや発見が多い1年となりました。同時に、人生の体感時間は年齢を重ねるごとに短く感じるようになっていっているように、あっという間に過ぎ去った1年でした。

ところで、今年の干支は「寅年」になります。動物に当てはめると「虎」になりますが、2022年は虎のように、様々なことに果敢に挑戦し、勢いのある明るい1年にしたいものです。会員や関係者の皆様におかれましても、2022年が健やかで明るい1年となりますように。今年も水土里ネット秋田をよろしくお願ひいたします。
(政策・広報班 竹内)

